代之池（だいのいけ）

位　置　図

諸　　元

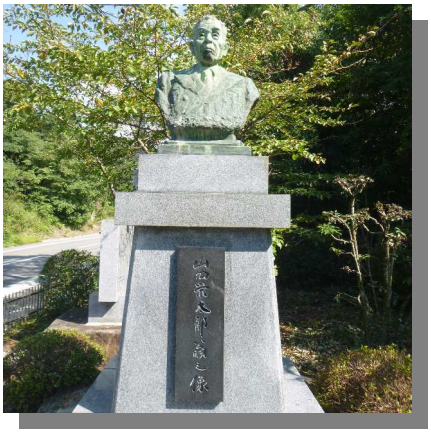
貯　水　量	234.7	千m^3
満 水 面 積	5.8	ha
受 益 面 積	20.0	ha
堤　　高	10.2	m
堤　　長	212.0	m

代之池は万治年間（1658～1660 年）から寛文の初めごろ、雲辺寺山の水を集めて流れる大池川をせき止めて築造されたのが始まりといわれています。現在では大池と親池・子池の関係にあり、しばしば大池からの給水も受けています。

代之池の集水面積は狭く降水量の少ない年には干害に見舞われたため、昭和の初めに堤防の嵩上げによって貯水量の増大をはかる工事が行われました。この工事では堤防を 12 尺(3.64m)嵩上げするとともに樋替する大事業でしたが、当時は最近のような優れた機械もない時代だったので、池の東側の畑と池のなぎさあたりから取った土をトロッコで運搬し、杵つきで締固める人海戦術で行われました。この工事での人夫の総数は 28,940 人といわれています。

昭和 26 年(1951 年) 7 月には連日の雨のために代之池は決壊し、家屋や田畑に浸水被害が生じました。水利組合長の小出三良氏並びに関係機関と提携して復旧事業の執行に当たったのが、当時村長であった山田栄太郎氏です。山田栄太郎氏はその後、農業組合法人紀伊組合を発足させて原野を開墾し、苗木１１万本を植栽して蜜柑園を造成しました。山田栄太郎氏の偉徳を偲んだ胸像は、今も雨宮神社から市道出晴立野線を挟んだ場所にあります。

代之池



山田栄太郎翁之像